



コスギ・コミュニティビジョン2040

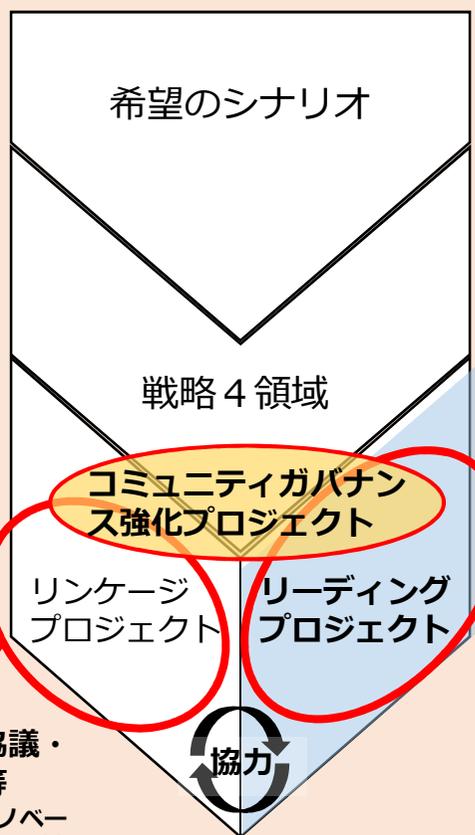
アクションプログラム

2019.05.15

本プログラムの位置づけ

本プログラムは、2016年3月に策定された「コスギ・コミュニティビジョン2040」(以下、「ビジョン」という。)に基づくリーディングプロジェクト及びコミュニティガバナンス強化プロジェクトについて、川崎市総合計画の中原区計画に基づく「アクションプログラム」として、とりまとめを行うものです。
なお、アクションプログラムの進捗に合わせ、重要な施策等については中原区計画の実施計画へ随時反映を行います。

コスギコミュニティビジョン2040



情報共有・協議・
連携・認定等
(コミュニティイノベ
ションのメルクマール)

リーディングプロジェ
クト、コミュニティガ
バナンス強化プロジェ
クトを「アクションプ
ログラム」として設定



川崎市総合計画に基づく 「中原区計画」

中原区のまちづくりの方向性

様々な世代が交流することでまちに活気があふれ、
人と人がつながりを大切にしながら、区民が地
域に愛着と誇りを持ち、これからも住み続けたい
と実感できるまちづくり

武蔵小杉駅周辺地域の取組の方向性

地域が主体となるまちづくり
地域の賑わい・交流創出に向けた仕組みづくり

アクションプログラム

武蔵小杉駅周辺地域のコミュニティの方向性

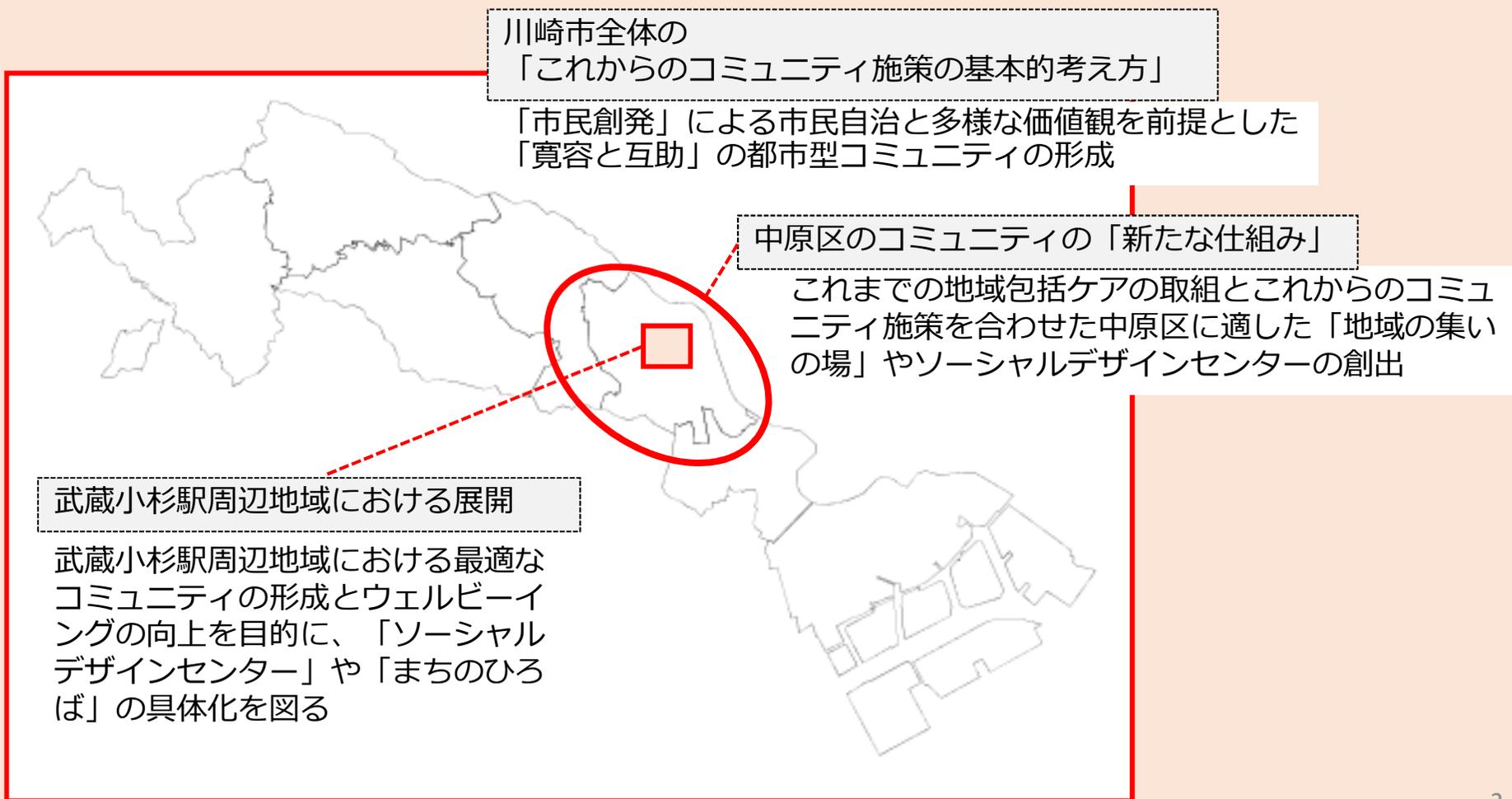
施策A

施策B

施策C

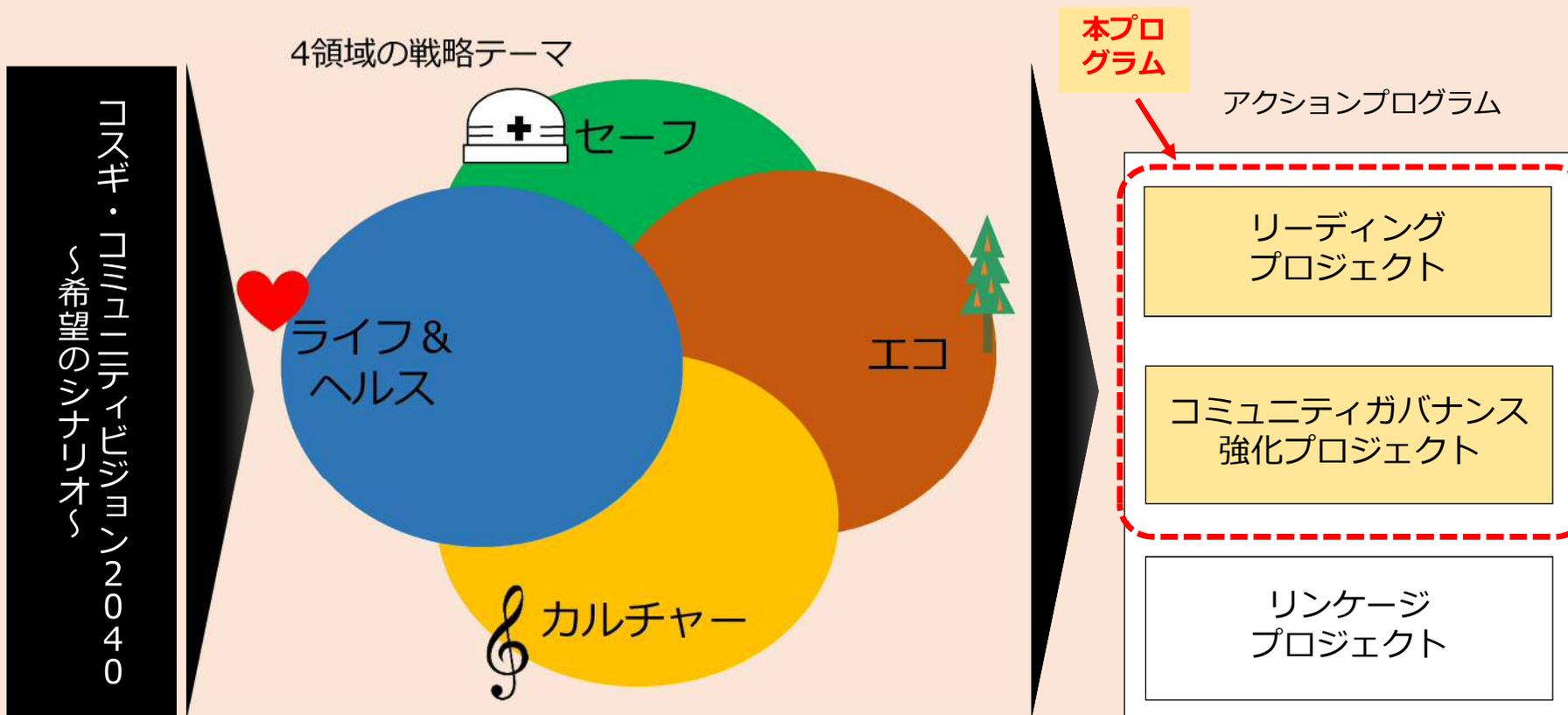
本プログラムと全市のコミュニティ施策との関係性

また本プログラムは、2019年3月末に川崎市において策定された「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」及び「中原区としての考え方」を踏まえ、全市で提示されているコミュニティ形成の場となる「ソーシャルデザインセンター」や「まちのひろば」についても、本プログラムに基づき具体化を図ります。



本プログラムの対象範囲

本プログラムは、ビジョンの中で設定された4領域の戦略的テーマにおいて、5年程度のタイムスパンで具体的な実践を行う複数のプロジェクトをまとめた「アクションプログラム」のうち、区役所の役割である「リーディングプロジェクト」及び都市型コミュニティの基盤づくりを目的とした「コミュニティガバナンス強化プロジェクト」について、今後の取組の方向性を示します。



プログラムの前提

本プログラムをまとめる前提として、ビジョンに掲げられた各項目を確認します。

◆コスギ・コミュニティビジョン2040

武蔵小杉の「まちの記憶」を継承しながら、従来からの低層住宅地域や商業地域とタワーマンションが林立する都市空間を、いかに共存・融合させるかという問題意識に基づいて、地域環境・地域社会・地域経済が調和した「持続可能な都市」「人間都市」への針路を提示する基本文書。2016年3月に武蔵小杉駅周辺地域連携推進会議(現「コスギコミュニティ創発会議」)により策定。

◆4領域の戦略テーマ

ビジョンにおける「希望のシナリオver.1.0」に向かうため設定された戦略テーマ。急速に成長する本地域における都市環境(エコ)、高密度の人口集積地域における安全安心(セーフ)、新旧の都市文化が相まった都市の個性と魅力の創造(カルチャー)、全ての市民が公平に健康で自己実現を図ることができる都市の構築(ライフ&ヘルス)の4領域を指す。

◆リーディングプロジェクト

4領域の戦略的テーマにおいて、5年程度のスパンで具体的な実践を予定しているプロジェクトをまとめた「アクションプログラム」のうち、コミュニティイノベーションへの貢献が期待され、他の戦略テーマへの波及によって総合的な取組への発展も期待できるプロジェクトで、かつ区役所が政策的に推進するもの。

◆コミュニティガバナンス強化プロジェクト

「アクションプログラム」のうち、本地域において町内会・自治会、マンション管理組合などの住民自治組織が、他の組織と連携しながらコミュニティの自治を担っていく基盤を構築するプロジェクト。

アクションプログラムの全体像

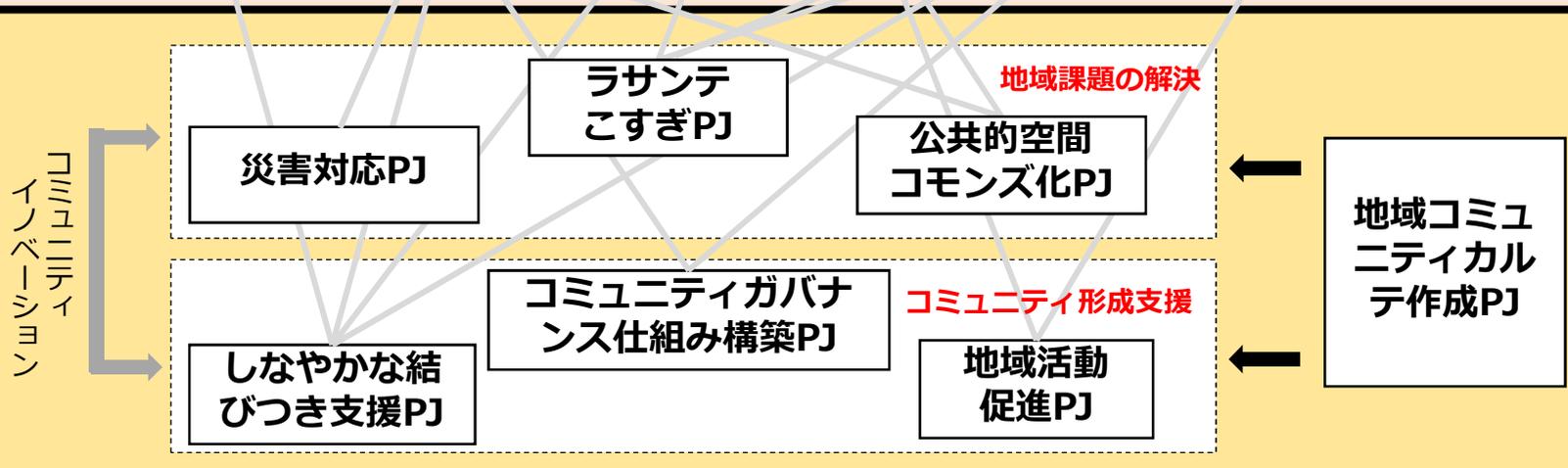
取組の方向性

- ・ 地域が主体となるまちづくり（最適なコミュニティの形成）
- ・ 地域の賑わい・交流創出に向けた仕組みづくり（ウェルビーイング向上）

実現の流れ



リーディングプロジェクト等



代表的な連携主体

NPOエリマネ	武蔵小杉商店街	市民館	社協	NECなど周辺企業	PIAZZA	メディア	各町内会
マンション管理組合	市民活動センター	市民アカデミー	商業施設	自主防災組織	住民	区役所	

災害対応プロジェクト



タワーマンションが立地する特徴的な地域であることを前提に、適切な災害対応の仕組みづくりや自助、共助、公助の役割分担、協力体制を構築します。また、地域特有の課題を解決しながら、災害に強いセーフ・コミュニティづくりにつなげます。

これまでの取組

- 2016年度から2018年度までの間に計3回、上丸子小学校において避難所の開設・運営訓練を協働で実施した。
- 2016年度に橘高校において避難所運営のボードゲーム「HUG」を実施した。
- NPOエリマネの防災ワーキンググループとの意見交換を行い、当地域の非常時に懸念される点について意識共有を行った。

現 状

- 避難所運営会議のうち、タワーマンションが構成団体となっており、なおかつ継続して活動に参加しているのは少数。
- 防災活動はマンションごとに実施されている。

課 題

- マンション特有の問題や避難所との関係など、当地域の防災・災害対応に関する課題が不明確。
- 区、マンション、個人の役割分担が共有されていない。
- 防災活動は限られた人のみ参加している。

達成目標

- タワーマンションも含め当地域の課題が明確化され、全ての地域住民と共有する。
- 課題に対して取組と役割分担が明確化され、防災・災害対応への万全な体制を構築する。
- 女性・子育て層向けの災害対応策を整える。

取組内容

2019年度

- 防災ワーキンググループと連携し、実態把握、課題設定、役割分担や取組の検討を行い、災害時行動マニュアルの検討や様々な想定のもと発災シミュレーション等の試行実施を行う。
- 女性・子育て層をターゲットにした災害対応策について検討を行う。

2020年度

- 課題、取組、役割分担等について地域住民への理解促進のための取組を検討、実施する。
- 災害時行動マニュアルの具現化やモデルマンションと連携した発災シミュレーション等に取り組む。

ラ・サンテこすぎプロジェクト



武蔵小杉駅周辺地域の様々な主体の資源を活用し創意工夫しながら、地域住民のウェルビーイング向上を目指します。フランス語で「健康」を意味する「ラ・サンテ」を合言葉に、健康を切り口に地域主体の課題解決や価値向上の取組を推進します。

これまでの取組

- 2018年度には法政大学インターンシップ生による健康資源調査を実施。
- 民間企業や地域の各主体により本プロジェクトのコンセプト作り及び実施アイデアのワークショップを2回開催。

現 状

- 当地域においては様々な健康資源やサービス主体が個別にサービス提供を行っている。
- 再開発により利便性が向上していると同時に、主要施設への移動距離が短縮化している。

課 題

- 地域住民のウェルビーイング向上に向けた地域が共有できる課題設定ができていない。
- 様々な健康資源やサービス主体のサービスのコラボレーションの余地が十分に残されている。

達成目標

- ワークショップにより課題とコンセプトを設定し、参加主体により抽出されたアイデアを実行し、効果をあげる。
- 取組についてコラボレーションを生むとともに、地域ブランドとして定着させる。

取組内容

2019年度

- 2018年度のワークショップで抽出されたアイデアの実行に向け調整し、試行実施(支援)する。
- 実行アイデアの認知、共感と地域ブランド化に向けた方策を検討、実行(支援)する。
- ラ・サンテの包括コンセプトを検討し、今後の取組を検討する。

2020年度

- 様々な属性に応じたプロジェクト展開ができるようコンセプトを精緻化する
- 実行アイデアを実施(支援)する
- コラボレーションを創出(支援)する

公共的空間コモンズ化プロジェクト



武蔵小杉駅周辺地域に存在する公園、自然空間をはじめとするオープンスペースについて、地域住民への認知、理解、活用を促進することにより、空間の共有を通じたコミュニティ形成(コモンズ化)を推進します。

これまでの取組

- 2016年度からこすぎコアパークの活用について地域の意見交換を行い、2018年度に「こすぎコアパーク活用方針」を策定。
- 2018年度にこすぎコアパークのさらなる有効活用に関する地域の合意形成。
- 2018年度に、当地域の公共的空間をまとめたガイドマップを作製。

現 状

- 主な公共的空間として、こすぎコアパーク、二ヶ領用水や等々力緑地などの自然空間、小学校の校庭、マンションの公開空地などが存在。

課 題

- 当地域の公共的空間が十分に認知されていない。
- こすぎコアパークについて、日常的な賑わいと憩いを生む空間づくりが十分にできておらず、イベント時以外は通行者のための空間となっている。

達成目標

- こすぎコアパークに日常的な賑わいと憩いを生む空間づくりを実現する。
- ガイドマップにより可視化された空間の有効活用により満足度の高い地域空間を実現する。

取組内容

2019年度

- こすぎコアパークに日常的な賑わいと憩いを生む空間づくりに向けた取組を支援する。
- ガイドマップのオープン化、認知度向上。
- 公共的空間について対象を選定したうえで有効活用策を検討、取組支援する。

2020年度

- こすぎコアパークに日常的な賑わいと憩いを生む空間づくりに向けた取組を支援する。
- ガイドマップのさらなる有効活用策を検討・施行実施体制を構築する。
- 公共的空間について対象を選定したうえで有効活用策を実施(支援)する。

しなやかな結びつき支援プロジェクト



町内会など既存枠組みがない当エリアにおいて、子育て層、シニア層、家庭内独居層などに地域として孤立化を防ぐ仕組みを構築支援するとともに、SNS等のツールも活用しながら孤立化防止に向けた取組を推進します。

これまでの取組

- 2018年度に地域SNSを展開するPIAZZA株式会社と協定を締結し、コミュニティ形成支援を促進。
- NPOエリマネやこすぎの大学など地域のつながり作りに貢献する市民活動を支援。

現 状

- 2017年実施のアンケートによれば「近所でよく会話する人」が「全くいない」人の割合は31.3%。
- 個人のつながり作りは個人責任により行われている。

課 題

- 地域として孤立化している人の割合については把握できておらず、またどの程度孤立化防止に向けた取組をするべきかについて、地域ニーズが不透明。

達成目標

- 孤立化防止に向けた地域ニーズを把握し課題設定する。
- 地域住民との協働により課題解決策を実施しニーズに対応する仕組みを構築(支援)する。

取組内容

2019年度

- 東京都市大学やNPOエリマネ等と連携したアンケートやインタビューを実施し、タワーマンション特有の課題を抽出するための状況把握を行う。
- 「まちのひろば」創出に向けた検討を進める。
- 地域SNS「PIAZZA」を活用したニーズ把握と解決策を検討、試行実施する。

2020年度

- モデルマンションの協力のもと、居住者とともに地域ニーズを設定する。
- ニーズに対応する仕組みを検討、構築する。
- その仕組みに効果的な取組を検討、試行実施(支援)する。

地域活動促進プロジェクト



多様な人材が居住、勤務、活動する武蔵小杉駅周辺地域において、自己実現を図れるような地域活動のナビゲート、人的ネットワーク形成、活動環境の整備を促進するとともに、多くの選択肢から地域デビューを支援できる仕組みづくりを行います。

これまでの取組

- 中原市民館、市民活動センター、区社協と連携した広報を行った。
- 地域活動に関する一元的相談窓口を区役所で試験的に開設した
- 地域活動に関する相談時の対応資料を共有した。

現 状

- 中原区役所、中原市民館、市民活動センターで市民活動支援、区社協でボランティア支援を行っている。
- 各組織で活動の場を提供している。
- 各組織は活動助成などの支援メニューがある。

課 題

- 中原区役所、中原市民館、市民活動センター、区社協の情報の共有が仕組み化されていない。
- 地域活動を始めたい方、団体を立ち上げたい方のナビゲートが各団体ごとになっており、地域として統合されていない。

達成目標

- 中原区役所、中原市民館、市民活動センター、区社協の情報共有の仕組みを構築する。
- 地域活動を始めたい方、団体を立ち上げたい方のナビゲートが地域として統合的にできる状況を達成する。

取組内容

2019年度

- 中原区役所、中原市民館、市民活動センター、区社協の情報共有の仕組みづくりを行う。
- 地域活動のナビゲート手法について関係団体と検討、試行実施を行う。
- ソーシャルデザインセンターに必要な機能について検討を行う。

2020年度

- 地域活動のナビゲート手法について関係団体との試行実施を踏まえた取組を検討、実施する。
- 地域デビュー支援の取組を検討、実施する。
- ソーシャルデザインセンター導入に向けた検討に取り組む。

コミュニティガバナンス仕組み構築プロジェクト

武蔵小杉駅周辺地域のタワーマンションにおいては自治会がなく、既存町内会の範囲外となっているため、この地域で必要とする自治の仕組みづくりに向け、ガバナンスのあり方をモデル化するとともに地域住民との連携を行います。

これまでの取組

- 「コミュニティガバナンス推進会議」により現在の課題抽出や全体像の検討、法的整理、事例調査等を進めながら、今後の取り得る策について検討。
- 新規マンション管理組合との交流会を実施。

現 状

- 各マンションは管理組合のみが設置されており、自治会を設立しているマンションはない。
- 町内会もなく、ガバナンスの仕組みが構築されていない。

課 題

- 各マンションから必要とされている自治のあり方、仕組みが明確化されていない。
- NPOエリマネの個人会員化によりガバナンスの中間支援機能がこれまでどおり行われない可能性がある。

達成目標

- マンション住民が求める自治のあり方を明確化し、構築する。
- 新規マンションにおけるスムーズな自治運営の仕組みを構築する。

取組内容

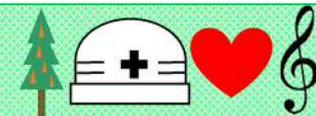
2019年度

- 当地域のコミュニティガバナンスの構造モデル化の検討を進める。
- 先進地域事例の収集、検討を行う。
- モデルマンションに協力してもらい、必要な自治について考えていくための対話と課題抽出、解決に向けた試行実施を行う。
- マンションコミュニティの法・政策課題を整理する。
- 居住者自治と所有者自治を整理・検討する。
- 新規マンションとの交流会を実施する。

2020年度

- モデルマンションの効果検証に基づき、継続実施や別マンションへの展開を進める。
- 新規マンションとの交流会を実施する。

地域コミュニティカルテ作成プロジェクト



武蔵小杉駅周辺地域において、各プロジェクトの実施・展開が全体最適化するよう、様々な視点からICTを活用し、地域コミュニティに関するデータを収集・分析し、それらを見える化し、公開します。

これまでの取組

- 中原区では地区別に現状分析をまとめた「地区カルテ」を作成。武蔵小杉駅周辺地域においては「小杉地区」としてとりまとめられている。

現 状

- 上記「地区カルテ」は地域包括ケアの推進に向けて作成されたものである。
- 「地区カルテ」は対象が5地区であり、「小杉・丸子・玉川地区」が一つのまとまりとなっている。

課 題

- 現状の地区カルテの「小杉地区」ではタワーマンションの情報が反映できていない。
- さらに、市民活動や防災、より広義なコミュニティの視点を含めた情報を一覽的に図示するものは作成されていない。
- 当地域では、データに基づく政策形成や市民参加、住民との意見交換などが進んでいない。

達成目標

- マクロとミクロの視点から、データに基づく政策形成や市民参加、住民との意見交換などを行えるよう、地域のコミュニティデータを見える化し、公開する。

取組内容

2019年度

- 作成の参考となる資料を収集するとともに、最適なデータベースについて検討する。
- 政策形成や市民参加、住民との意見交換に活用できるデータについて検討し、収集・分析を進める。
- 集めたデータをもとに予備的・試行的にカルテ(一覽)を作成する。公開の方法も検討する。

2020年度

- 引き続き、データ収集・分析を進めながら、見える化を進める。
- 情報の公開に取り組むとともに、データを活用した政策形成や市民参加、住民との意見交換等の方法を検討し、試行実施する。

プロジェクト化されていない取組について

リーディングプロジェクト等については、今後、新たなプロジェクトの設定や他のプロジェクトとの統合など、社会状況に応じて最も有効と思われる手段を検討しながら取組の具体化を図ります。また、現時点でプロジェクト化には至っていないものの、以下の「地域SNSを活用したコミュニティ形成支援」「域学連携の推進」のように、既に動き出している取組もあります。これらについては、今後の進捗状況に応じて、リーディングプロジェクト等として設定する可能性もあります。

地域SNSを活用したコミュニティ形成支援

取組の背景

- 当地域における住民ニーズを直接把握できる機会が限定されている。
- テーマに基づくコミュニティ形成が進展する中、地域SNSのユーザーが拡大している。

これまでの主な取組

- コミュニティ形成支援及び住民ニーズの把握を目的に、2018年11月に中原区と地域SNSを展開するPIAZZA株式会社が連携協定を締結。

今後の方向性

- 様々な層を対象に地域SNSを活用したコミュニティ形成支援に取り組む。
- 地域SNSを活用した住民ニーズの把握方法を検討し、試行実施を行う。

域学連携の推進

取組の背景

- 2017年3月に法政大学と川崎市が、武蔵小杉駅周辺地域を中心とした、学生参加によるコミュニティの取組を進めるため、持続可能な都市づくりに資する活動及び自治体の公共政策に関する域学連携を発展させることを目的とした協定を締結。

これまでの主な取組

- 法政大学の現地実習プログラム「キャリアチャレンジ」を実施し、「ラ・サンテこすぎプロジェクト」の一環として健康資源調査等を実施。

今後の方向性

- 大学とのさらなる連携を図りながら、複数の主体が連携した地域課題解決を目指す。

今後の進め方と進捗管理

本プログラムを実効性のあるものとするために、以下のように中原区役所内関係部局、川崎市役所関係部局と連携を図るものとします。進捗管理については、中原区役所地域振興課を事務局として課題等を整理し、コスギ・コミュニティ創発会議において進捗報告及び委員からの意見反映を行うこととします。なお、各プロジェクト及びプログラム全体については2021年3月末に成果検証を行い、事業の見直しや川崎市総合計画における実施計画等への整合を図ってまいります。

アクションプログラム関係課一覧

プロジェクト名	関係課
災害対応PJ	危機管理担当、地域みまもり支援センター、地域振興課
ラ・サンテコスギPJ	地域みまもり支援センター、地域振興課
公共的空間 commons 化PJ	まちづくり局拠点整備推進室、建設緑政局企画課・みどりの企画管理課、区道路公園センター、地域振興課
しなやかな結びつき支援PJ	企画課、地域みまもり支援センター、地域振興課
地域活動促進PJ	中原市民館、企画課、地域振興課
コミュニティガバナンス 仕組み構築PJ	市民文化局コミュニティ推進部、地域振興課
地域コミュニティカルテ 作成PJ	企画課、危機管理担当、地域みまもり支援センター、地域振興課

コスギ・コミュニティ創発会議
にて進捗管理

2021年3月末に成果検証